

## 鹿児島県北薩圏域

### 1. 令和元年度の達成目標・取組状況

| 令和元年度の達成目標   | 取組状況  |
|--|---|
| 1. 地域移行支援申請件数が7件あり、地域移行支援サービスの活用が促進される。            | 北薩圏域でピアサポーターを養成し、北薩圏域内の協力病院等で体験談発表を行い、協力病院から「退院支援利用希望者及び退院候補者リスト」を提出してもらった。その後、戦略チーム会議にて地域移行支援サービスにつながるケースの検討を行っている。現在（2月14日時点）で北薩圏域の精神科病院入院患者からの地域移行支援申請件数が3件。その他、地域移行支援サービスの申請を検討している方や退院に対する気持ちの変化のあった方が数名いる状況である。 |
| 2. ピアサポーターが20名養成され、北薩圏域で活動できる。                     | 7月20、21日に北薩圏域で初めて精神障害者ピアサポーター養成講座を実施。20名が受講を修了し、希望者に対し面接を行った。その中から5名をピアサポーター訓練生として相談支援事業所が決定し、9月2日から活動を開始した。協力病院や研修会などでの体験談発表や相談支援事業所相談支援専門員と一緒に個別支援を行ったり、毎月保健所が実施する戦略チーム会議に参加したり活動を続けている。                            |
| 3. 保健・医療・福祉関係者による協議の場が2回以上開催され、圏域内で地域の課題等について協議できる | ピアサポーター訓練生や、協力事業所、協力病院、その他事業に興味のある一般相談支援事業所、市町、保健所、県障害福祉課及び県精神保健福祉センターの担当者、密着ADによる「戦略チーム会議」を8月から毎月実施。事業進捗状況（体験談発表や個別支援等）の共有、課題の検討等を行っている。   |

### 2. 支援事業の成果

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・北薩圏域で20名のピアサポーターを養成し、精神科病院や相談支援事業所で5名（現在4名）のピアサポーターが体験談発表や個別支援などの活動ができたことで、ピアサポーターを活用した地域移行支援体制構築のきっかけづくりになった。</li> <li>・精神科病院等でピアサポーターによる体験談発表を実施することが、入院患者の退院意欲の促進や支援者（病院スタッフ等）の精神障害に対する理解や、対象者への関わり方の変化、本人中心の支援のあり方を考えることにつながった。</li> <li>・毎月保健所が実施している戦略チーム会議にて、ピアサポーターや地域の支援者、密着AD等による多様で活発な意見交換やタイムリーな情報共有を実施することができた。地域課題の明確化や顔のみえる関係性の構築・連携強化につながった。</li> </ul> |
|---|

### 3. 次年度に向けた課題等

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事業で構築された地域移行の体制をどのように継続していくか。保健所がリーダーシップを取るだけでなく、それぞれの立場（市町や病院、事業所等）でできることを協議、連携し、地域全体の力を高めていく必要がある。</li> <li>・トップレベルが集う場を設け、地域移行・地域定着支援について協議し、支援者の理解を深め、地域課題の整理や明確化を行う。</li> <li>・精神障害者を地域で支えるための社会資源の開拓や障害福祉サービスの活用を進める必要がある。</li> <li>・精神障害（精神疾患）に対する地域住民や家族の正しい理解を深めるため、普及啓発を行う必要がある。</li> <li>・地域でピアサポーターが活動する場の拡大が必要である。</li> </ul> |
|--|

### 4. 課題の解決に向けた 令和2年度の取組方針

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度末までに、北薩圏域における「保健・医療・福祉関係者による協議の場」を設置する。戦略チーム会議等既存の会議の活用やメンバー構成、開催頻度等について検討を進め、地域課題について協議を行う。</li> <li>・市町自立支援協議会や研修会等を活用し、支援者だけでなく地域住民・家族の精神障害に対する理解を深める。（普及啓発活動）</li> </ul> |
|---|